

JICA 中国事務所ニュース

2011年9月号

【トピックス】

- ◎ 都市廃棄物の循環利用に向けて 2

【ニュース】

- ◎ 西城区日本文化祭 3
- ◎ プレスツアー 3
- ◎ いい日、旅立ち 4
- ◎ 東北アジア生態フォーラム開催 4
- ◎ 円借款地方行政官国内研修について 5

【寄稿コーナー】..... 6

【帰・赴任者コーナー】 7

【China Cool】 9

【今後の予定】 9



中秋節の月餅と季節の果物

皆様からのご感想やコメントをお待ちしております。

編集室担当： shenxiaojing.cn@jica.go.jp

- ☆ 中国事務所ウェブサイト <http://www.jica.go.jp/china/office/index.html>
- ☆ ボランティア活動 <http://j.people.com.cn/99005/index.html>
- ☆ サーチナ JICA ページ <http://searchina.ne.jp/jica>

トピックス

都市廃棄物の循環利用に向けて



政策検討会の様子



ゴミ処理場

8月30日、北京にて「都市廃棄物循環利用プロジェクト」第一回政策検討会が開催されました。日本側からは上智大学大学院柳下正治教授を始めとする研究者、中国側からは国家発展改革委員会資源節約環境保護司郭啓民処長、清華大学環境学院ネイ永豊教授等の関係者、日中合計で約50名が参加しました。

■「都市廃棄物循環利用プロジェクト」について

中国では急速な工業化や都市化の過程で、都市廃棄物の発生が急増しています。一方、これに対する適切な処理体制、包括的な循環利用体系は未整備のままであり、都市廃棄物の不適切な処理・利用は環境保全、健康リスクという観点から重大な社会問題へと発展しています。代表的な問題として食品廃棄物の再利用が挙げられますが、レストランで客が残した火鍋等の油を利用する「口水油（「口水」は中国語でよだれのことであり、他人のよだれも油に含まれているという意味）」、安価で取引される排水溝や下水溝に溜まった油をろ過して作った「地溝油」など、衛生上問題のある油の利用は一般市民の食の安全を脅かす問題として、テレビ、新聞等のメディアで度々報道されています。

本プロジェクトはこれらの問題に対し、これまでの大量の資金・人・物資の投入による経済発展、つまり「粗放的」な経済発展を是正し、「循環型」な安定的な経済成長を目指す中国政府の方針を受けて、国家発展改革委員会をパートナーとして2010年10月より開始されました。プロジェクトは都市廃棄物の適切な管理の推進、廃棄物の資源化、廃棄物回収分野の段階的なフォーマル化、日中専門家による共同研究・人的交流の推進を目的としています。具体的には、対象4地方都市（浙江省嘉興市・山東省青島市・貴州省貴陽市・青海省西寧市）の都市廃棄物、レストランなどからの食品廃棄物、ペットボトルなどの包装廃棄物、廃タイヤに関する調査研究、パイロットプロジェクト実施などの協力を行なうほか、最終的には日中の廃棄物分野の専門家による国家レベルの政策提言を行うことを目標としています。

■政策検討会の開催

本プロジェクトでは、調査研究、パイロットプロジェクトの結果や本分野における日本の経験が国家レベルの都市廃棄物に関する政策や法律の整備に活かされるよう、さまざまなタイミングにて、日中間のワークショップを実施します。今回は第一回目の政策検討会として、日中の研究者を含むプロジェクト関係者が初めて一堂に会し、意見を交わしました。中国側研究機関からは、4地方都市の家庭系廃棄物を対象としたゴミ量・ゴミ質調査の結果や、今後の調査方針について発表があり、続いて日中双方による忌憚のない意見交換が行われました。また、分野ごとの日中研究者の交流も行われました。特に、調査結果発表の質疑応答では、その分野の第一人者である日中研究者の間で白熱した議論が展開され、今後の調査方針に関しては、来年度以降に予定されている各都市における廃棄物の戦略プラン及び廃棄物の適正処理、循環利用体系に関するロードマップの

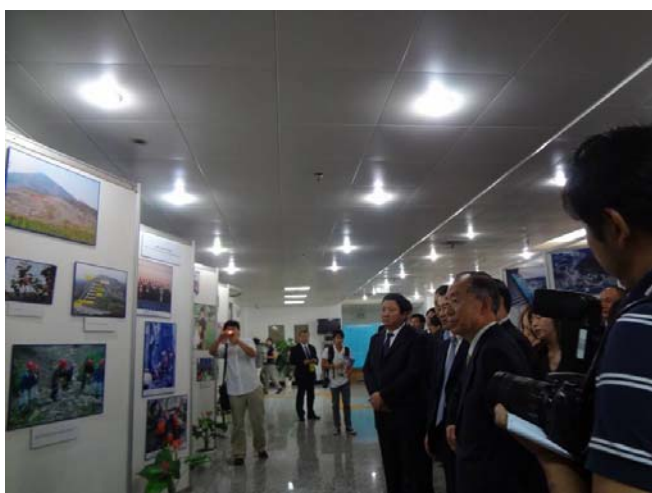
策定を見据えた協議が行われました。

■現場視察について

同検討会に続き、8月31日～9月3日にかけて、日本側研究者、JICA 専門家一行が、青海省西寧市および浙江省嘉興市において現地政府との協議、廃棄物回収・処理施設の視察を行いました。社区(コミュニティー)からの生活廃棄物が絶え間なく廃棄物中継ステーションに運ばれてくる様子、鉄くずや包装容器が資源として取引されている様子、資源化工場にて廃油がディーゼルオイルへ、食品廃棄物が肥料へと製品化される現場を見て、中国における廃棄物循環システム、そして「粗放型」から「循環型」への取り組みの現状と今後の課題を一同実感しました。「中国の廃棄物利用の現状を理解する貴重な体験となった」(日本)、「廃棄物回収システムの構築といった政策面から廃棄物を製品化する手法といった技術面まで、本プロジェクトを通して多くの事を日本の経験から学びたい」(中国)、といった日本の自治体や企業が有する先進的な技術や経験の活用を求める意見があり、今後のプロジェクト展開に期待が寄せられています。(所員 高島亜紗)

ニュース

西城区日本文化祭



8月26日から28日までの3日間、在中国日本大使館、西城区人民政府外事弁公室の主催により、西城区日本文化祭が開催されました。JICA もトキのパネル、四川地震関連のパネル写真等を用いて、事業紹介を行ないました。西城区は、東京都中野区、渋谷区と友好関係にあり、会場となった西城区図書館には、中野区から寄贈された本も所蔵されていたり、隣接の公園にも中野区から贈られた桜が植えられていたりしています。期間中、会場にはお年寄りから親子連れまで、地元の市民を中心に日本に関心を持つたくさんの参観者が訪れ、そこかしこで温かな交流の輪が広がっていました。JICA のパネルは、河北新聞社の写真パネルを用いた東日本大震災の写真パネル

と向い合った配置とされたこともあり、参観者は、日中それぞれの経験した災害による被害の大きさに思いを致すと共に、これらの災害に当たり日中双方が互いに協力し合ってきたことへの認識を深め、日中それぞれへの親近感を増している様子でした。(所員 可児希代子)

プレスツアー

JICA 中国事務所は、8月29日から31日まで、今年度2回目となるプレスツアーを実施しました。今回のプレスツアーには北京青年報、人民網、中国国際放送局(CRI)の記者が参加し、8月29日に北京を出発、3日間をかけて、草の根技術協力プロジェクトの「太行山地区における多様性のある森林再生事業」取材しました。ツアーでは、プロジェクト実施団体の緑の地球ネットワークの高見邦雄事務局長らに対するインタビュー、山西省大同市及び靈丘県のプロジェクトサイト見学が行なわれ、その結果は、それぞれのメディアで掲載されました。(記事の内容は、次の URL からご覧いただけます。)

人民網 <http://world.people.com.cn/GB/15551680.html>

<http://world.people.com.cn/GB/15546393.html>

<http://world.people.com.cn/GB/15575646.html>

CRI <http://gb.cri.cn/27824/2011/09/05/5631s3360631.htm>

<http://gb.cri.cn/27824/2011/09/05/5311s3360954.htm>

(所員 屈維)

いい日、旅立ち JDS プログラム留学生第九期 39 名が順調に出発

■ 順調に出発

2011 年 8 月 5 日と 29 日、合計 39 名の JDS プログラム留学生が北京首都空港から日本留学へと旅立ちました。

出発に先立つ 8 月 28 日、北京長富宮飯店で事前オリエンテーションと壮行会が開催され、日本大使館の山崎公使、商務部国際経貿関係司の康処長ほかが激励の言葉を述べ、留学生の前途を祝しました。留学生からは、学業に励み、優秀な成績を取りたいという抱負の他に、日本で友人をたくさん作りたい、日本の多くの地方を見たい、日本語をよく勉強したい等の発言が相次ぎました。



■ 留学の概要

今回出発した 39 名の留学生は、それぞれ筑波大学、立命館大学、名古屋大学、神戸大学、早稲田大学等 10 大学の大学院で法律、公共政策、経営、経済、国際関係を学びます。中国の未来を担う若手行政官が、日本において日本の経験や理論を学び、その経験を活かして中国の一層の発展に貢献するとともに、日中両国間の架け橋となって両国の相互理解の増進、協力関係の強化に大きな役割を果たすことが期待されます。

■ 実績

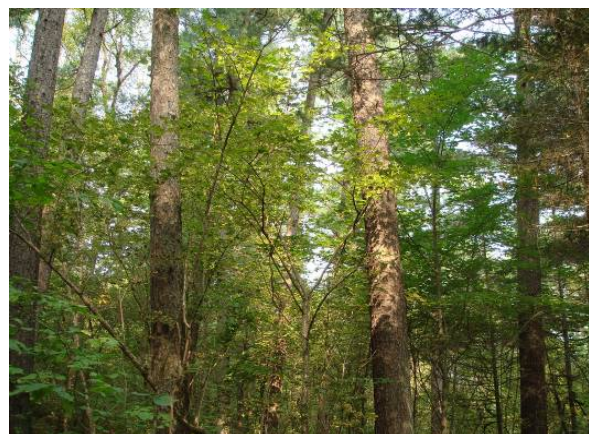
JDS プログラムは日本政府の無償資金協力による留学生受け入れ事業であり、中国の中央政府及び地方府の若手行政官を対象としています。これまで 365 名の方が日本に留学し、そのうち 305 名は日本での留学を終えて帰国し、元の職場に戻って活躍しています。現在募集中の来年度派遣者は 35 名を予定しています。

(所員 李瑾)

東北アジア生態フォーラム開催



フォーラムで挨拶する中川所長



赤松の天然林

森林分野における気候変動対策、さらに東北アジア地域において同課題への取組を議論するために、8 月 27 日～28 日の二日間、「林の都」と呼ばれる黒龍江省伊春市において同省政府、国家林業局及び博鰲アジアフォーラム研究院の主催により、東北アジア生態フォーラムが開かれました。

中国側からは黒龍江省政府、国家林業局等関係機関の関係者が、また、国際連合食料農業機関(FAO)、日本林野庁、ドイツ国際協力機構(GIZ)、世界自然保護基金(WWF)、国際自然保護連合(IUCN)、韓国環境科学研究所とインド緑色経済研究所の関係者が参加しました。JICA 中国事務所からも中川所長と担当者が出席しました。

フォーラムにおいて、各国の専門家は森林分野における気候変動への対策、カーボンシンクとその取引体制の確立、持続可能な森林経営等をめぐって各自の調査・研究状況を発表し、活発な意見交換を行いました。参加者の発言から気候変動対策への熱意や前向きな姿勢が感じられる一方、研究成果を実行に移す段階の細則の検討と各国のそれに関する共通認識の形成が必要と思われます。

中川所長はフォーラムでJICA事業、特にREDDプラスに対するJICAの支援方針や実施中のプロジェクトを紹介し、JICAの気候変動に長期的に貢献していく意を表しました。

伊春市は赤松の故郷といわれています。同市五箇国家森林公園には赤松の天然林が残っており、中国で最も大規模な赤松の保護区となっています。フォーラムの後には、同森林公園にて現場視察が行われました。

(所員 李飛雪)

円借款地方行政官の訪日研修について



舞洲廃棄物処理工場



地方行政官訪日研修団の皆さん

中国に対する円借款の新規承諾は 2007 年度をもって終了しましたが、現在も各地方において約 60 事業が引き続き実施中です。これら円借款事業の円滑かつ着実な実施のため、8 月 30 日からの一週間、円借款事業のカウンターパートである中国財政部、輸出入銀行、地方財政庁等で実務を担当する行政官 18 名を対象に訪日研修を実施しました。研修では、JICA 本部における円借款事業の実施促進に向けた様々な実務研修のほか、大阪及び神戸で自治体の環境対策や防災対策に関する視察を行いました。

■研修の内容

JICA 本部では、調達、貸付実行、環境配慮、事後評価、広報といった円借款事業の要となる業務をテーマとした講義に続き、参加者が日々の業務で直面している具体的な問題や疑問について、JICA との活発な意見交換が行われました。実務研修を通じて、円借款業務に関する手続きやルールを改めて学ぶとともに、これら手続きやルールの背景にある原則や考え方を知ることで、さらに理解を深めることができました。また、各省で円借款実務を行っている担当者が集まったことで、各省のグッドプラクティスを共有する場ともなりました。

地方視察では、大阪市の舞洲廃棄物処理工場、神戸市の人と防災未来センター等の見学を行いました。舞洲廃棄物処理工場では、廃棄物処理場とは思えない、童話の世界から出てきたような工場外観に一同驚き、「技術、エコロジーと芸術の調和」をコンセプトとする、大阪市の人と自然との共存の取り組みを実感しました。工場内の見学では、廃棄物の処理中に発生した熱で工場内の電力を賄う省エネ技術、臭気や騒音対策といった周辺地域の生活環境への配慮等の取り組みから、日本が有する廃棄物処理の経験と技術を学びました。また、人と防災未来センターでは、阪神・淡路大震災、東日本大震災の被害や復興に関する展示を見学し、2010 年 4 月の青海省地震や 2011 年 3 月の雲南省地震の被災経験がある研修員達からは今回学んだ防災に関する知識を帰国後、復興、防災管理業務に活かしていきたいという前向きな発言がありました。

■実務能力の強化と相互理解

研修閉幕式では、「円借款事業が中国、特に内陸部地方の発展に重要な役割を果たしていることを再確認した」、「1979 年から始まった日中友好の歴史とも言える円借款に携わる者としての使命感、そして事業効果を確保する責任を改めて感じた」という意見があり、研修を通じ、円借款の実務能力が向上したことに加え、円借款業務を通じた相互理解、信頼関係の構築の一助となったことを確信しました。

(所員 張陽)

寄稿コーナー

「人類の美しい未来のために」 ～中国→東北→日本→世界の未来づくりへ向けて～



「復興の先輩から学びたい」という気持ちで聞き入る参加者

東日本大震災から半年となる9月10日、JICA 東北支部では、宮城教育大学教育復興支援センターとの協働により、第4回未来づくりESDセミナー「震災復興と学校・地域の未来づくり」を開催しました。岩手県陸前高田市、宮城県気仙沼市、そして、中国四川省やインドネシアアチェ州、それぞれの被災地における教育、心のケア等の現状・方法・実践事例を共有し、今後のアクションに繋げることが目的です。参加者は、教育関係者を始めとした一般市民、大学生・高校生と様々な立場で、被災された地域の方々も多く、被災地域の子どもたちを受け入れている教育現場の方もおり、共にESD=Education for

Sustainable Development の目的でもある持続可能な未来に向けて活発な意見交換が行われました。

その中で、インターネット通信により中国と日本を結び、「四川大地震復興支援—こころのケア人材育成プロジェクト」の堤敦朗専門家、四川大学附属中学校専任心理教師の何平先生に出演頂き、プロジェクトの経緯・内容・現場からの報告を、行政とのリンク、日本とのカリキュラムの違いにも触れて説明頂きました。参加者は「復興の先輩から学びたい」という気持ちで聞き入りました。

「復興の先輩から励まされた」「中国の震災後の子どもたちへの心理的なケアの制度に驚いた」「日本側も学ぶ点は多々ある」「世界の類似する震災の例とそれを乗り越えた過程について学べて良かった」などの感想が参加者から聞かれました。他にも、「さらに具体的な内容、教材、子どもたちの変容、授業の効果を知りたい」「復興を考えるにあたり、市長・地域の人々などどのような方法で話し合い、検討していったのか?」「地震直後と3年後の子どもの心理状況の変化に対する取組みを知りたい。また、その取組みをどう東日本大震災のケースに役立てるのか、アドバイスをお聞きしたい」といった積極的な質問も寄せられました。

心のケアの必要性、仕組みとして取り組んでいくことの大切さを実感され、これまでの具体的な取組みはもちろん、子どもたちの具体的な変容、東北地域への活用に関してさらに関心を持たれたようです。

「辛い経験をした同志だからこそ共有出来ることは多い、ぜひ協力させて欲しい」と、心強い温かなメッセージを頂いた中国・インドネシアの方々。「発信していくことが我々の社会的使命」とし、セミナー実施に協力下さった東北の先生方。その思い・アクションを無駄にせず、東北・日本・世界の「未来づくり」へ活かしていくよう、中長期的に東北の復興に関わっていかなければならないと、東北にある当支部事業に携わる者として、東北に生まれ生きる一東北人として、その責務を実感しました。

また今般のセミナーは、被災地の国際連携と経験の共有というステップに、東北地方で初めて踏み出した企画。今後は心のケアの実施や震災の教訓を国際間で共有するなど、実施に向かって踏み出さなくてはなりません。引き続き東北復興のために、世界の国際協力のために、共に知恵と経験、思いをシェアし未来を創っていきましょう。

「人類の美しい未来のために」

何平先生のメッセージが胸に響いております・・・。

*「第4回未来づくりESDセミナー 震災復興と学校・地域の未来づくり」

<http://rce.miyakyo-u.ac.jp/event/h23/sem4.pdf>

*「宮城教育大学教育復興支援センター」

<http://renkei.miyakyo-u.ac.jp/kenkyo/mirai/gaiyo.pdf> (JICA 東北支部 市民参加協力調整員 高橋依子)

帰・赴任者コーナー

長期専門家 チーフアドバイザー 竜澤宏昌 ～ダム運用管理能力向上プロジェクト～



帰国の2カ月前のことだ。寧波市で開催したワークショップの後、長江水利委員会陸水水利中枢管理局のはからいで三峡ダムを視察させて頂いた。現場に向かう車中、案内役の黄主任から思いもよらぬことを言われた。『この仕事は日本人でなければできなかった。中国人の多くは、自分の仕事や見解について他人から意見されることを嫌うんです。あれだけの関係者や専門家が関わり、多くの指摘や意見が噴出したなかで、よくぞ謙虚に耳を傾け、あそこまで(ダム管理マニュアル案を)纏め上げてくれました。いい仕事をされたと思います。中国では、このようなことを「兼収並蓄」と言って評するんです』プロジェクト開

始当初は、日中の関係者の間で、また、日本人専門家同士でも、プロジェクト進行や方法論で対立し、苦悩する日々が続いた。2年間、常に焦りながらも、自分にできることは何かを考え続けてきたつもりである。しかし、自らの力量不足もあって、得られる情報も乏しく、満足できるような成果を上げることはできなかった。それでも、あの日、黄主任からかけていただいた言葉で報われた気がした。今はチーフアドバイザーという大役を何とかやり終えたという安堵の気持ちと、中国で出会った多くの友人に対する感謝の気持ちでいっぱいである。皆さま、2年間、ほんとうにありがとうございました。

長期専門家 業務調整員 今井淳一 ～持続的農業技術研究開発計画～

持続的農業技術研究開発計画(第2期—環境に優しい農業技術開発及び普及)で、農業技術普及・業務調整を担当した今井淳一です。2009年9月からの2年間の任期を終えることとなりました。

広い中国を相手にしたプロジェクトは難しい課題も多く、思うような活動ができずに悩んだことも多くありました。そんな中でも、やる気のあるC/Pと中国の農村に出かけ、変化する中国農村を感じ取りながらの活動を通じ、自らの心を奮い立たせて何とかやることができました。

長期滞在としては1996年以来で北京に住み、移り変わる北京の街と人々に触れ合えたことは何よりの収穫でした。恐らくこの国とは何らかの形で一生関わっていくことになると思います。その意味では「さようなら」ではなくて、また会う日までという願いをこめまして「再見！」と言ってお別れしたいです。お世話になった皆様、どうもありがとうございました。



長期専門家 チーフアドバイザー 尾澤英夫 ～職業衛生能力強化計画プロジェクト～



今年度スタートした職業衛生能力強化計画プロジェクトの長期専門家として、このたび赴任しました尾澤英夫です。中国には約10年前に出張して以来で、降り立った国際空港の威容さとともに、北京市街の発展する姿に、中国のみなぎる活力を感じています。本プロジェクトは発展を続ける経済産業の中で働く労働者の職場の衛生環境を改善し、健康で安心して働ける職場づくりを支援するものです。私自身、これまで厚生労働省で企業の労働安全衛生対策や労災補償政策、雇用対策などの分野に長年携わってきました。その経験をもとに本プロジェクトの推進に、チームスタッフ、JICA 中国事務所の皆様のご支援をいただきながら努力してまいりたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

長期専門家 チーフアドバイザー 及川拓治 ～ダム運用管理能力向上プロジェクト～

「はじめまして！ ダムプロジェクトの及川拓治です。」

水利部人材資源開発センターを拠点として、2009年9月から実施中の中国ダム運用管理能力向上プロジェクトの2代目のチーフアドバイザーとして後半の2年間を担当します。プロジェクトの進捗を通じて、中国のダム管理機関の能力向上に役立ちたいと考えます。

私は1978年の大学卒業以来、34年間、ダム等の水資源開発施設の建設・管理を経験してきました。長期の海外勤務は今回が初めてで単身赴任です。中国には、1999年に水利人材養成プロジェクトの事前調査団に建設管理分野の専門家として参加しました。

赴任後、8月18日から27日にかけて、4つのモデルダムを訪ねました。どこのダムでも熱烈的な歓迎を受け、プロジェクトの着実な成果を確信した次第です。

今回、2年間の長期にわたり中国に滞在するにあたり、プロジェクトの成功を目指すのは当然として、中国から何かしらの得ものを持ち帰りたいと強く思います。まずはカウンターパートの皆さんとのお付き合いから始めたいと考えています。どうぞ、よろしくお願いいたします。



長期専門家 業務調整員 土岐典広 ～持続的農業技術研究開発計画～



8月24日「持続的農業技術研究開発計画プロジェクト」の業務調整員として着任致しました土岐と申します。

当プロジェクトは、中国の農業生産に起因する灌漑排水や地下水、土壌などの環境汚染を抑制・改善する対策を強化し、環境保全及び資源節約型社会の構築に寄与する事を目的に、2009年から2014年3月まで実施しているプロジェクトです。前半の2年半は主に技術開発、後半は前半に開発された技術に社会科学の要素を加え、技術普及体制の強化活動になり、私は業務調整とこの技術普及の体制強化に当たります。

プロジェクト終了までの2年半、宜しくお願いいたします。

中 秋 節



中秋節は中国の旧暦の8月15日で、秋季のちょうど中間なので、「中秋」と呼ばれています。この日の夜は家族そろって、月餅や季節の果物を食べながら、夜空の満月を楽しむ習慣があります。

最近では、社会の発展に伴い、月見は庭ではなく、マンションのベランダで行なわれるようになりました。また、中国では、一般的には月餅はこの時期にしか販売されていません。このため、月餅はこの季節の格好の贈答品となり、包装に凝ったもの、アイスクリーム等の変った中身のもの、新鮮さを楽しむために引換券方式となっているものなど、さまざまな工夫を凝らした月餅が販売されるようになりました。中秋節の前やその当日には、自ら大きな包みを抱えて友人や親戚に月餅を贈ろうとする人々の姿が、地下鉄や街角でも見受けられます。北京では、車で月餅を配る人々によって、交通渋滞が発生するほどです。

今年の中秋節の夜は残念ながら、曇りとなり月は見えなかったのです。ただ、我が家では、ちょうど、カナダから帰ってきた姉の娘が中秋節の日にカナダに戻るため、前日の夜、家族揃って、月餅を食べながら、月見をしました。世の中の移り変わりにしたがって、伝統的な祝日の過ごし方も少しずつ変化が見られますが、それでも、伝統的な習慣を大事にし、季節感とともに子供たちにも伝えていきたいものです。

(所員 沈曉静)

★ 今後の予定

- ① 10月11日～13日 アジア湿地シンポジウム、湿地と生態系保全万博（無錫市 錫州花園酒店）
（JICAはシンポジウムの協賛パートナーとして、シンポジウムでの発表、万博でのブース展示を行います。）
- ② 10月26日～28日 青海日本文化祭（西寧市 青海民族大学 写真展示）